2025年度　第４回森と水の源流館　授業づくりセミナー　概要報告

奈良教育大学　中澤　静男

◇開催日時　　2025年８月３０日（土）10時～12時
◇開催方法　　ＺＯＯＭによるオンラインセミナー
◇参加者　　１８名

◇内容
０－１．源流館からの話題提供
①中谷先生のダムの学習記録を源流館に展示している
②８月１１日（山の日）にトヨタソーシャルフェスタを開催した。大滝ダムの竜が見れる。
０－２．中澤からのＥＳＤ学会分科会発表報告
ＥＳＤにおける脳科学の援用
・ＥＳＤは持続可能な社会の創り手としての脳内モデルを形成する学び
・グリア細胞のアストロサイトの影響で、特別な状況下での事物は記憶に残る
ＥＳＤ実践に特別な状況を組み入れる。特別な行事などをＥＳＤとして位置付ける。
１．「わたしたちの食といのちをつなぐプロジェクト」：鹿屋市立鹿屋小学校５年生　上園氏の報告
１学期
総合的な学習：代掻き（泥あそび）体験
社会科「米作りのさかんな地域」
２学期
水田全体や稲の様子を見渡して
・ジャンボタニシの食害　　コメが足りないといわれているのに、もったいない
「なぜ、農薬を使わないのだろう？」
→　農業高校生に聞いてみよう←　農業高校では有機栽培に取り組んでいるので
かつてはアイガモ農法にも取りくんでいた
・収穫量が少なくなるのに、なぜ？
・農薬を使って育てたお米と比べて、味は違うの？
家庭科での食べ比べ体験：あまり変わらない
栄養教諭からのアドバイス　身体にいい、アレルギーをおこしにくい
・校区を流れる肝属川の生き物に影響があるから　生態系についての学習への発展
○市役所農政課より：鹿屋市の有機農法の取組
→　水田の多面的機能に気づく
３学期　ＫＡＮＯＹＡ　ＲＩＣＥ　ＥＸＰＯ２０２６　　おにぎりパーティー
・食べ残しはどこでどのように処理されるんだろう
・食材の選び方
・耕作放棄地が広がっている。なんとかならないか？
◇意見交流
①１学期や夏休みの米作りはだれがしたのか？　農業高校生が取り組んでくれた
農業高校の課題探究と連携する

②テーマが広がりすぎる。絞った方がいいのか
　コメ作りに関する知識を得ることが目的ではない。探究的な学び方を体験することが重要。高校生も課題探究でいくつかに分かれるはずなので、そこに参加する形にする（選択させる）。高校生が先輩研究者となって、学び方を学ぶ機会にする。高校生にとっても、やりがいになり、ウイン―ウインとなる。
③農薬使用について考える機会にする
　答えのない問い。おにぎりパーティーにお世話になった高校生や保護者、地域の方を招き、今後の農業について座談会ができればよい。
④市役所も巻き込むことで、持続可能な鹿屋市についての学びに広がる可能性がある。

２．「プロジェクトＱ　福岡のギョロッケに秘められた願い」小学校５年生総合　橋本先生の報告
社会科：水産業の課題
　・日本全体の水産物の生産量と消費量が減ってきている
　・安定して水産物が取れないと。近い将来、水産物が食べられなくなるかもしれない
導入：「今月の給食で食べる水産物を確かめよう」
中心発問：「毎年この時期に「福岡のギョロッケ」を給食で食べるのはなぜだろう？」
　福岡市水産業総合計画：世界に誇る！魚のおいしいまち・福岡」
　　若年層への魚食普及・地元水産物の利用促進
深める発問：「ギョロッケに秘められた願い」をさぐってみよう
　漁師、加工業者、運搬配送業者へのインタビュー　　食品ロスを減らすアイデアが詰まっている！
　ＶＴＲ　ギョロッケ加工の視聴
発展させる発問：自分たちにできることは何だろう（今＆将来）
　９月２５日（木）ギョロッケを食べよう
　ギョロッケ、水産業に対する自分の思いがどのように変わったか　アンケート調査
意見交流
①給食では出されたものを食べさせられているという現状があり、食に対する関心は高くない
②市の水産業総合計画の再解釈に挑む
　「出されるから食べる」ではなく「食べたいから食べるへ」
　食材としてはエビフライと同じくらい高い。それでも給食メニューにするのはなぜか
③ソウルフードとしてのギョロッケ
　食材を通して、地域の自然環境や社会環境を学ぶ・ふるさと学習、地産地消を学ぶ
　食品ロスをなくすことの大切さを学ぶ

３．食品ロスに関する学習：小学５年生　福岡市立七隈小学校　島先生の報告
１学期　水産業に関わる学習　→　海の食品ロスを減らしたいという思いが高まった
２学期　①給食室の食品ロスを調べる
　②「どうして食品ロスが発生するのだろう」
　　本やインターネットで情報を集める
　　食品ロス研究家の井出さん（あるいは市役所）にインタビューする
　　環境面、経済面、社会面での負の影響を知る。
　③食品ロスを減らす福岡市の取組「フードドライブ」を調べる

市役所木村さんにインタビュー

・フードドライブの取組を広げたいが、地域住民の関心は低い

→　よい取り組みでも参加者が少ないと食品ロスは減らない

④フードドライブを開催しよう

⑤食品ロスを減らすために取り組んできたことをまとめ、発信する。

意見交流

・食品ロスを実感させる手立て

映像を使いながら、「もったいない」だけではない、ダメな理由を考えさせる

・処理エネルギーの無駄、二酸化炭素排出による温暖化

・税金の無駄遣い

・給食室の食品ロス調べを福岡市全体に広げることで、何とかしなくては、という気持ちになる。

・給食室の食品ロスを金額で表すと実感がわくのではないか。

・学びをショート動画で発信し、フィードバックをもらうと児童の意欲が向上する

・鹿屋小学校５年生と交流することを伝えておくことで、意欲が途切れない。

４「いつまでも安全・安心な水を使い続けるためには…」小学４年生社会科

教職大学院１回生　東君の報告：９月に桜井市立初瀬小学校での教育実践演習時に実践予定

①単元展開の概要

導入：蛇口の水はどこからどのようにして送られてくるのか

中心発問：なぜ、私たちはいつまでも安心・安全な水を使い続けられるのだろう？

浄水場、上水道などの施設、水の循環や水源などの自然環境

深める発問：いつまでも使い続けることができるだろうか？

琵琶湖での５０年前からの取組　→　身近な大和川ではどうだろう？

源流館に川上村の取組を教わる

発展させる発問：いつまでも安全な水を使い続けるために、自分たちにできることを考えよう

水を汚さない取組、身近な地域のゴミ拾い

学習成果の発信：初瀬川宣言。ポスターの作成

②意見交流

・源流館スタッフに出前授業をしてもらおう

・まず、個人の宣言を作成し、１週間程度実践したのち、みんなの宣言文を作成すると、絵に描いた餅にならない。

・海外では水道水を飲めないところがほとんどである。海外在住経験者にインタビューする。

・安全な水を手に入れられない途上国の現状を紹介するユニセフ動画の視聴

・蛇口からオレンジジュースが出てくるところの例を紹介し、オレンジジュースより水の方が大切であることに気づかせる。